

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 6 (2024) 年 9 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>
受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月 1 日

音声入力を活用されていますか？

岸 真司

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 第二小児科部長 医療情報管理センター長
基礎課程小委員会 委員

多くの施設でデジタルトランスフォーメーション (DX) による働き方改革が進行中です。その中で、音声入力は業務変革をもたらす重要なデジタル技術として注目されています。当院でも、職員に配布したスマートフォンを用いてカルテ記載業務の改革に取り組んでいますが、まだ道半ばといった状況です。新技術の受け入れには個人差があり、特に音声入力に関してはその差が顕著に現れています。そのため、まずは新しいツールに抵抗が少ない職員に使用してもらい、その経験を院内に広げる方針をとっています。

さて、音声入力は国内でどの程度普及しているのでしょうか。ChatGPT-4 によると、総務省の情報通信白書では、音楽再生や天気予報の確認、家電操作といった私的利用が主流であるとされています。医療現場での音声入力の活用については、診療記録の作成時間短縮や効率化が期待される一方、プライバシーやセキュリティ、音声認識の精度向上が課題として残っています。当院の経験から言えることとしては、システム導入コストや利用者の心理的抵抗、そしてリテラシーの向上も大きな課題です。

ここで言うリテラシーとは、“てにをは”を正確に、明瞭な日本語で話すスキルです。第 49 回日本診療情報管理学会学術大会で開催されたシンポジウムの内容は録音データから文字起こしされて学会誌 (36 巻 2 号) に掲載されますが、私が座長として校正を行った際、自分の発言が不正確であることに愕然とした経験から、このリテラシーの重要性を強調します。

そのシンポジウム「診療情報をつかう・まもる・つなぐ」の記録は、直近の学会誌に掲載されています。90 分間の内容が一字一句再現され、とても読み応えがあります。一部を紹介すると、情報セキュリティの三要素である CIA (機密性、完全性、可用性) に関する講演は、読み返すことで理解が深まります。また、電子カルテがサイバー攻撃でダウンした際に診療情報を現場に届けた事例は、臨場感のあるイメージトレーニングとなるでしょう。ぜひ学会誌をご覧ください。学会員から借りるのも一つの方法ですが、最もお勧めするのは学会への入会です。